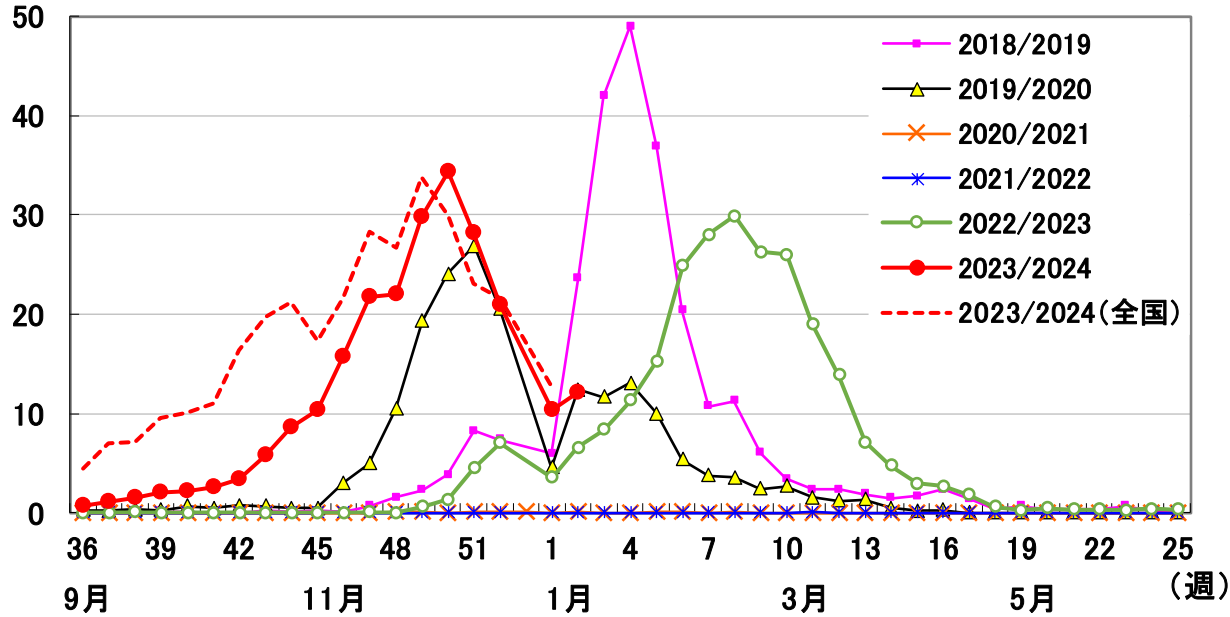


インフルエンザの発生状況(富山県)

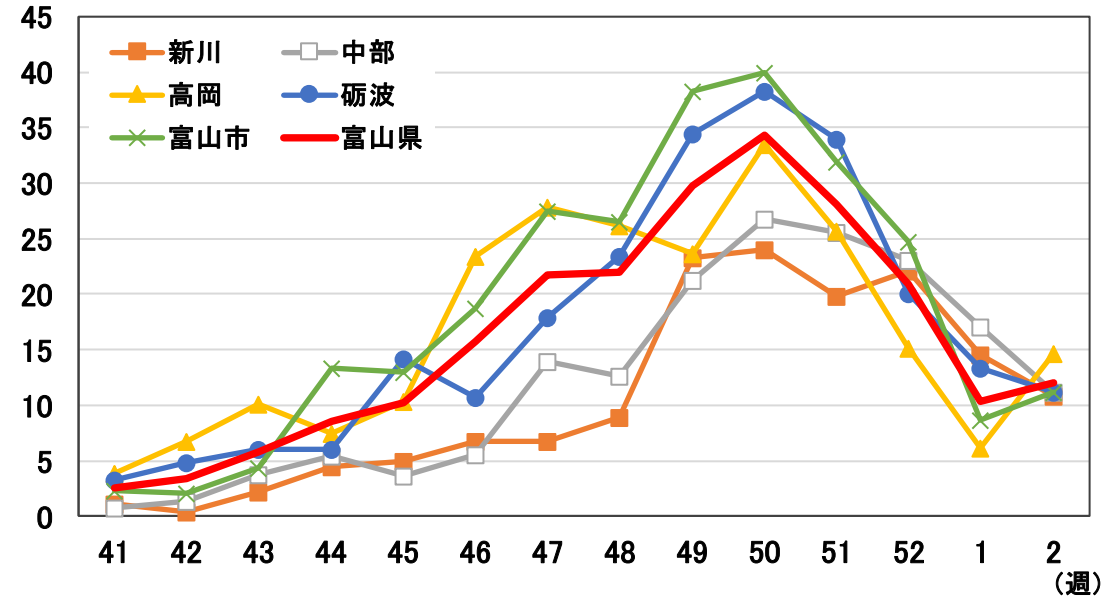
【第2週(2024/1/8~1/14) 感染症発生動向調査速報値 (2024/1/17時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数(図1)は今週(第2週)12.04人/定点となり、先週(10.38人/定点)からやや増加した。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、高岡、富山市管内で先週から増加した。一方、新川、中部、砺波管内では先週から減少した。

図3. 年代別割合(富山県、第2週)

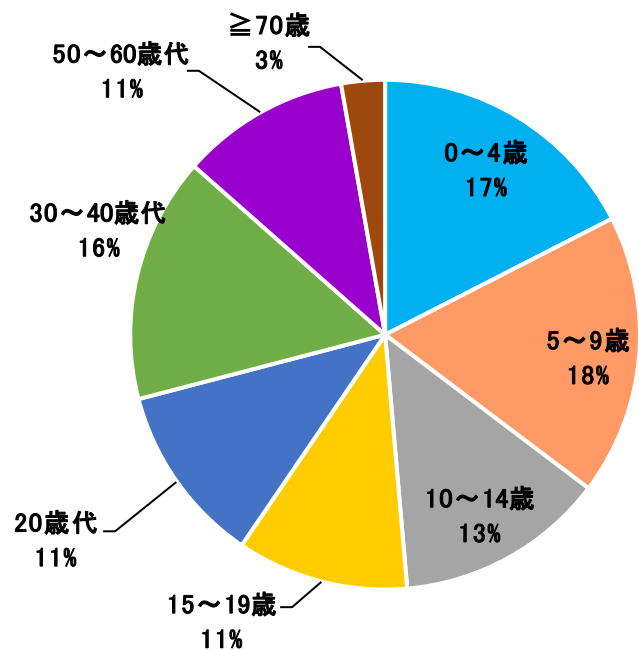
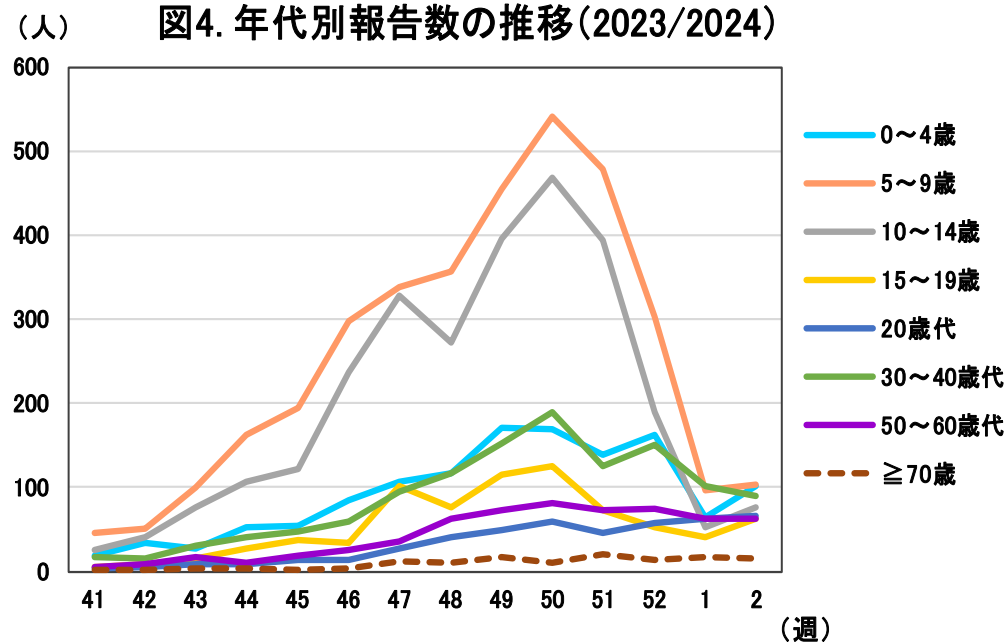


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第2週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が48%を占めた。一方、20歳代～60歳代の割合が38%となった。
- 年代別報告数の推移（図4）では、0~4歳（水色）、10~14歳（灰色）、15~19歳（黄色）で先週から増加した。その他の年代では先週から横ばいであった。
- 第2週から学校が再開したが、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の報告はなかった。

富山県インフルエンザ関連情報HP：<https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/kenkou/iryuu/kj00007295.html>

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第1週)

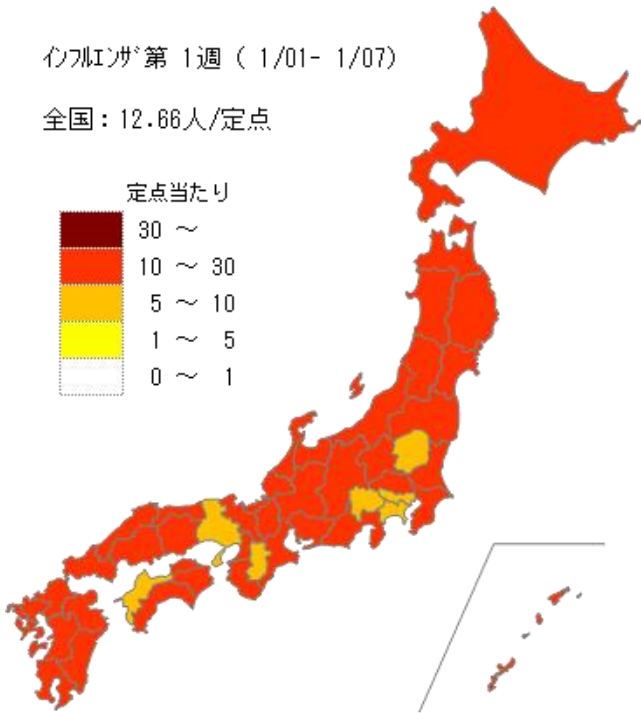
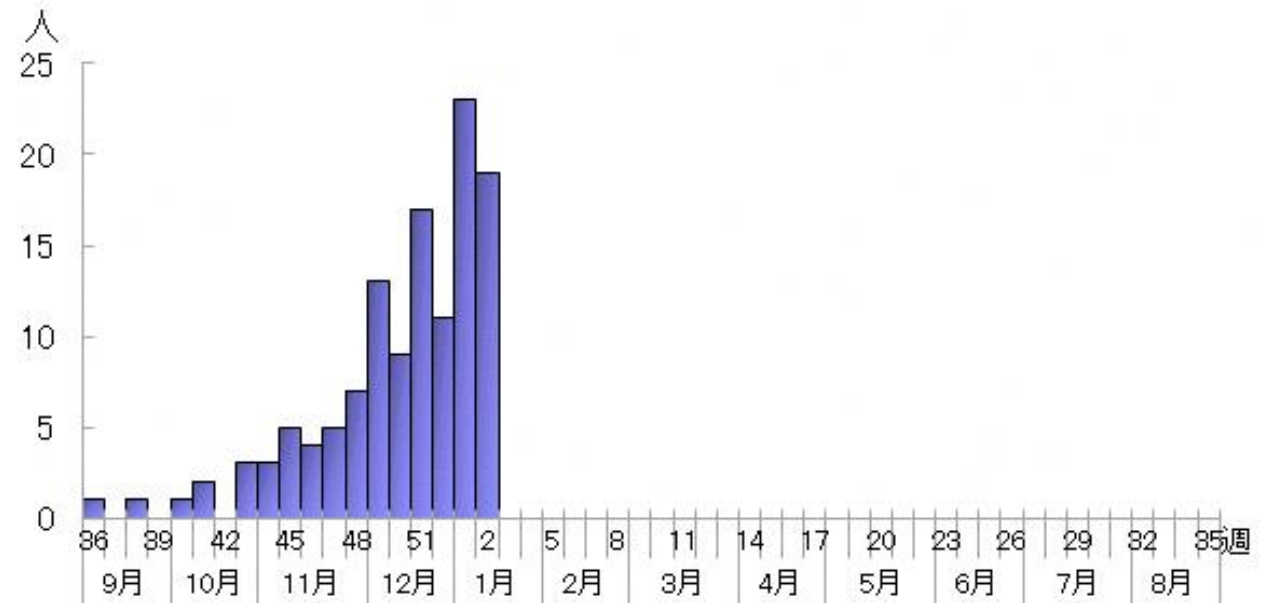


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第2週)



- 全国では第1週に12.66人/定点となり、第52週(21.65)から減少した。年末年始に伴う医療機関の休診の影響が考えられる。都道府県別(図5)では、40都道府県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス(図6)では、第2週に19例の報告(10歳代:2例、20歳代:1例、60歳代:1例、70歳代:7例、80歳以上:8例)があった。
- インフルエンザ定点の患者報告数は先週からやや増加した。今年に入り、15歳未満の小児の割合が減少し、20歳代~60歳代の割合が増加した。
- 今後の更なる増加が懸念され、引き続き動向を注視する必要がある。